

入学期をひかえて

心の準備はできましたか

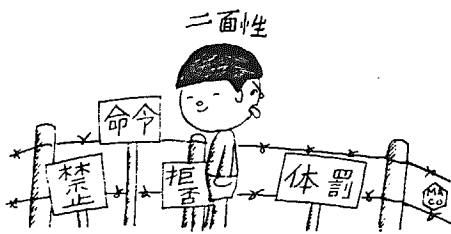
- * 入学の準備はすみましたか、準備といっても、*
- * カバンや衣類など「物」をさすだけではありませ
- * ん、「心」の準備こそ一番大切なことではないでし
- * ようか。すでに保育所や幼稚園などで、団体生活
- * における規則やエチケットなどは一応身につけて
- * いると思いますが、今回は、子供のしつけに入
- * 入を当ててみました。

しつけとは、子供の自主性を重んじながら、日常生活に必要な行動様式を習慣づけること——と頭ではわかっていても、実際は、わが子かわいさのあまり甘やかすきざし「つまり過保護に、逆に親の理想とする子供像に近づけようとして、厳しすぎ

子供の自主性を大切に

—過保護と過干渉の戒め—

る統制——いわゆる過干渉になったりしがちです。過保護と過干渉——この二つのしつけに共通していることは、子供の「自主性」を育てる上でほとんど役に立っていないことです。甘やかすのも厳しくするのもほどほどに——。



過保護



過保護になつてはいけなと思いつつ、つい世話をやきすぎしてしまうのも、親ならばその心理といえましょう。しかし、何ごとも、過ぎたるはなお及ばざるがごとしで、過保護も、子供の成長によい結果をもたらさない場合が多いようです。

しつけを「習慣づけ」と考えると、ある面では、半ば強制的にならざるをえないことがあるのも確かです。ことに幼児期には、厳格

なしつけ、干渉は、子供の人間形成にとって極めて重要な意味をもっています。ただ、問題は、その度合いです。厳しすぎる強制過干渉は、過保護と同じように子供の性格形成にいい影響を与えない場合が多いようです。

自己中心になりがちな過保護のしつけ

一般的に、過保護とは、子供のいいなりになつたり、子供が自分でしなければならぬことまで親がやっつけてしまう、一方的なサービス過剰の親子関係をいいます。このような過保護のしつけは、

子供の性格形成にどういう影響を与えるかといえます——まず「子供のいいなり」になつて行動をとる行動が多くなり、学校などの集団生活に必要な協調性を

一面性をもった性格も過干渉のしつけ

子供は、親のいう通りにしないとしかられ、時には体罰も加えられるという事になると、親の前では、服従的で、素直な「よい子」になろうとします。自我をおさえ、主張をかくし、悪くすると

欠くようになつたりします。また「世話のやきすぎ」は、子供が自分で考え、行動する自主的な生活経験のチャンスをおとすことになる。この結果、社会生活にスムーズに適應できなかったり、自分で責任をもつて行動する自主的な生活経験のチャンスをおとすことになる。



われわれも応急手当くらいは

交通指導隊員もけん命

万一、交通事故の現場に居合せたら、救急車が来るまで、応急手当ができれば……と、二月十四日、中央公民館で、交通指導隊員の応急手当実技指導会が開かれました。

①出血はどうか。
②呼吸はしているか。
③脈はあるか。



真剣に指導を受ける隊員

④意識はあるか。

などをすばやく察知し、止血の方法、気道の確保（呼吸が苦しくならぬように、頭を後方にそらせ、のどを広げる）口内洗浄（口の中に何かつまっていたら取り出す）人口呼吸、骨折している場合の動かし方、などの実技指導に、真

- OB級 優勝 島倉 進（蓮方団地）
- OC級 優勝 安達興英（山田）
- 小学生 優勝 桜井浩二（木場下）
- 二位 村松直和（新町）
- 三位 高橋秀典（スワ町）

明治の青年ハッスル！

町が行っている生涯教育の一つ老人を対象とした「寿学級」生の会合が、二月十五日総合体育館で開かれ、講演を開いたり、ゲートボールやテニスなどの球技に挑戦若無者ぶりを発揮していました。

午前8時、板井の福浄寺住職、藤由理英さんの「因果応報」という

粗大ゴミを収集

テレビ、冷蔵庫、自転車、家具トタン等の粗大ゴミはこの機会にお出し下さい。

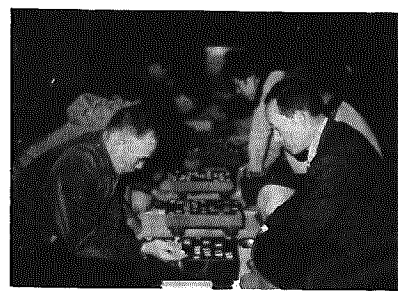
保健所では、不用犬の引き取り指導、取り締り業務を次の日程で行います。

引取り月日 三月十九日(月)
取締り月日 三月二十三日(金)
なお、日程の前日までに役場環境課まで問い合わせ下さい。

犬の引取りと指導取締り

少年棋士に大人もビックリ

一般優勝は東条栄喜さん



盤上とにらめっこ対局者

二月四日、中央公民館で町将棋愛好会（会長佐藤寅一さん）主催の新春将棋大会が開かれ、かつてない多くの愛好者が詰めかけ、盤が足りない、駒が足りないという主催者側は大あわて、一時間も遅れてようやく、佐藤会長のあいさつで対局開始。

二月四日、中央公民館で町将棋愛好会（会長佐藤寅一さん）主催の新春将棋大会が開かれ、かつてない多くの愛好者が詰めかけ、盤が足りない、駒が足りないという主催者側は大あわて、一時間も遅れてようやく、佐藤会長のあいさつで対局開始。今大会のハイライトは、小・中高校生が二十余人も参加、回を重ねるたびに盛況になり、パチリ、パチリと手並みもあきらかに対局も進み、中・高校生は一般者と同

級のA・B・Cの三クラスに分かれ激戦を展開、小学生の部は十二人で優勝争い、その結果、A級は過去数回優勝経験をもつ、五区の東条栄喜さんが全勝で優勝を、小学生の部は、桜井浩二君（木場下四年）が上級生を連破して初の栄冠を獲得、大物の素質十分と観戦者から太鼓判が押された程。大会は五十人もの参加で延々八時間にも及び、午後六時各クラスの入賞者が決定、それぞれに賞品が贈られ、ようやく終了符がうたれ閉会しました。各クラス別人賞者は次のとおりです。

優勝 東条栄喜（五区）
優勝 東条栄喜（五区）